

37 解答 d

3歳の小児で右側優位の肺門部陰影の拡大を来す疾患の問題である。臨床症状は比較的軽微で非特異的。これらの情報だけでは確定診断には至らないものの、選択枝も考慮して、出題者の意図を推測するに、結核症の基本的な知識を問うた問題と考える。尚、結核の場合、肺門部リンパ節腫脹は右側が80%と多い。

- a.正 成人に比べると少ないが、小児でも10%程度みられるとされる。多いかどうかの判断は他の選択枝次第。
- b.正 初感染巣が肺尖部に多いということはないが、一部の結核菌は血行性に肺尖部へ達し、ここでも持続生残型 **persistor** として生存し続けると考えられている。それを考慮すれば正。
- c.正 リンパ節には初感染巣と同様、乾酪壊死病巣が形成される。
- d.誤 小児では稀と考えられており、頻度が高いと言うには無理がある。
- e.正

38 解答 b

- a.誤 両側肺野に小斑状影が多数みられることが特徴であるこの症例では、積極的には考えない。
- b.正 斑状影が見られる疾患の代表である。胎児仮死があったことは、この診断と矛盾しない臨床情報である。選択枝内で斑状影が問題となるのは胎便吸引症候群のみである。
- c.誤 先天性奇形を示唆する所見はない。
- d.誤
- e.誤

39 解答 c,e

- a.誤 造影2枚目の画像から腹水がないと言うのは困難のような気もするが、誤とする。
- b.誤 魚骨は指摘できない
- c.正
- d.誤 明らかな膿瘍形成はないと意図した問題と思われる。
- e.正 虫垂結石より盲端（先端）側は紡錘状に腫大しているように見える。但し、虫垂壁の造影効果は不良。壊疽性虫垂炎が疑われる。

以上、解答 37～39 は太田智行会員（川崎市立多摩病院）